

書名	日本書紀を歩く⑤ 天皇の吉野			著者名	靄井忠義／著		
出版社	青垣出版	ISBN	978-4-434-29858-5	本体価格	¥1,400	発売	2022/2/1
内容	神武東遷、応神天皇、雄略天皇、天武天皇、持統天皇…。古代に画期を成した天皇らは皆、吉野に大きな足跡を残した。また、後醍醐天皇、源義経らは都で挫折、吉野へ落ち延びた。吉野は、山一つ隔てた都にとって特別な土地だったのだろうか。吉野の先住民たちは都人らから異人種か異民族のように見られ、南朝は吉野を拠点に120年にわたって抵抗した。明治維新のさきがけとなった天誅組は、「花書より軍書に悲し」吉野でパッと咲き、パッと散った。						

書名	知れば知るほどおもしろい「日本の神さま」の秘密			著者名	関裕二／著		
出版社	三笠書房	ISBN	978-4-8379-6994-5	本体価格	¥740	発売	2022/2/1
内容	アマテラス、スサノオ、ヤマトタケルから聖徳太子、菅原道真まで……日本ならではの「八百万の神々」。このオールスターの神さまたちは、いったい何をしたのか。『古事記』、『日本書紀』をはじめとするさまざまな古文書、いまでも多くの人々が訪れる神社、遺跡を読み解くと、そこには絵空事ではない本当の姿が浮かび上がってくる。						

書名	神様のおつかい			著者名	マリアンヌ ミシェル／著		
出版社	マキノ出版	ISBN	978-4-8376-1425-8	本体価格	¥1,300	発売	2022/2/8
内容	私が初めて神様に「おつかい」を頼まれたのは、2008年のことでした。夢に現れた大仏様が、「奈良に來なさい」と話しかけてきたのです。不思議な偶然が重なり、ほんとうに奈良へと呼ばれ、そこで行ったのが「奈良の結界はずし」。空に張られていた結界を素戔嗚様に渡された刀で切り、天界からの光を奈良の地に降ろしました。これが13年に渡る神様のおつかい……「ご神事」の始まりでした。						

書名	<洗う>文化史			著者名	編集／国立歴史民俗博物館、花王株式会社		
出版社	吉川弘文館	ISBN	978-4-64208406-2	本体価格	¥2,200	発売	2022/2/10
内容	私たちはなぜ「洗う」のか。洗うという行為、清潔という感覚を古代から現代にいたるまでさまざまな事例を取り上げ、文献・絵画・民俗資料から分析。また、儀礼・信仰の世界での「祓う」「清める」といった行為の意味を追求し、精神的な視野も交えて、日本人にとって「きれい」とは何かを考える。現代社会の清潔志向の根源を、歴史と分析科学から探る。						

書名	神話の源流をたどる 記紀神話と日向			著者名	編集／上野 誠、大館 真晴		
出版社	KADOKAWA	ISBN	978-4-04-400673-0	本体価格	¥1,800	発売	2022/2/16
内容	古事記、日本書紀の編纂から1300年。古代の歴史書はなぜ、どのように作られたのか。歌謡に込められた意味とは。風土記、万葉集の研究も踏まえ、国家創造を読み解く。宮崎県による、日本書紀編さん1300年記念のシンポジウム「神話のふるさと県民大学」(宮崎)、「日本書紀から紐解く「神話の源流」みやざき」(大阪・東京)での基調講演をもとに論じた、斯界を代表する研究者が明らかにする、日本古代の最新研究。						

書名	奈良で学ぶ 寺院建築入門			著者名	海野聡／著		
出版社	集英社	ISBN	978-4-08-721202-0	本体価格	¥1,000	発売	2022/2/17
内容	日本には七万以上の寺院が存在する。これらの建築様式は様々だが、その源流は奈良に見ることができる。なかでも工匠の知恵と工夫と技術革新を直に堪能できるのが、唐招提寺、薬師寺、興福寺、東大寺の四寺だ。そこで、建物の基本骨格や建築の基礎知識を説明し、各寺院建築の具体的な造られ方を、図版や写真をふんだんに使いながらわかりやすく解説。そうすることで、各技術にこめられた職人の思いばかりか、天皇・藤原氏や僧侶の権勢・思想といった歴史も見えてくる。建築という視点から、新しい奈良の魅力を照らし出す、今までになかった寺院鑑賞ガイド本。						

書名	面白すぎる！日本史の授業			著者名	河合敦、房野史典／著		
出版社	あさ出版	ISBN	978-4-86667-366-0	本体価格	¥1,500	発売	2022/2/24
内容	大人の皆さんがかつて習ったあの歴史もあの人物もほんとうは……。最新の歴史研究はどんどん進み、日本史はいまどんどん変わってるんです！本書はそんな変わりゆく日本史を歴史好き芸人・房野史典氏がコミカルに、そしてNHK歴史探偵でおなじみ河合敦先生がアカデミックに解説します。奈良の大仏建立は日本初の郊外案件？天下分け目の関ヶ原は一瞬で終わった？ などなど「そうだったのね」の日本史が楽しく学べる一冊です。						

書名	和らぎの国 小説・推古天皇			著者名	天津佳之／著		
出版社	日経BP 日本経済新聞出版本部	ISBN	978-4-532-17163-6	本体価格	¥1,800	発売	2022/2/28
内容	1400年前、史上初の女性天皇が聖徳太子を摂政に据え、打ち立てた十七条憲法。和を以て貴しとなす。日本が「国家」となった時代の物語。『利生の人』で日経小説大賞を受賞した天津佳之氏の受賞第一作。今作は神話から歴史に移る時代、日本の「国家」としてのはじまりを描く野心的な作品である。主人公は日本史上初の女性天皇・推古天皇、8人とも10人ともいわれる人たちの話を同時に聞き分けられたという伝承の残る“元祖「聞く力」”で摂政として政治外交を仕切った聖徳太子、そこに蘇我氏、物部氏という二代豪族勢力が絡む。						